

ApresiaLightGS シリーズ ファームウェア

リリースノート

APRESIA Systems 株式会社

制定・改訂来歴表

No.	年 月 日	内 容
-	2019年 1月 25日	新規制定(Ver. 1.00.00 対応)
A	2019年 6月 24日	Ver. 1.01.00 対応 適用機種追加 (APLGS110GT-PoE, APLGS118GT-PoE, APLGS128GT-PoE) 技術サポート情報取得機能対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10000-ER001, ER002, ER003
B	2019年 11月 29日	Ver. 1.01.01 対応 既知問題の情報追加 - APLGS-10101-ER001 - APLGS-10100-ER001, ER002 - APLGS-10000-ER004~ER012

はじめに

本リリースノートは、ApresiaLightGSシリーズのファームウェアについて説明するものです。ファームウェアに関する重要な情報が記載されていますので必ずお読みください。

◆対象バージョン

本リリースノートの対象バージョンはVer. 1. 00. 00～1. 01. 01 です。

ApresiaLightGSシリーズ製品のファームウェアバージョンを確認するには、Webブラウザで装置にアクセスし、ログイン後に表示される [機器情報] ページのバージョン情報をご覧ください。

最新リリースバージョン	Ver. 1. 01. 01
前回リリースバージョン	Ver. 1. 01. 00

◆適応機種一覧

シリーズ名称	製品名称
ApresiaLightGS シリーズ	ApresiaLightGS110GT-SS, ApresiaLightGS120GT-SS, ApresiaLightGS128GT-SS, ApresiaLightGS152GT-SS, ApresiaLightGS110GT-PoE, ApresiaLightGS120GT-PoE, ApresiaLightGS128GT-PoE

◆対応バージョン一覧表

各製品の対応バージョンを以下に示します。対象となる製品には、対応バージョン以外のファームウェアをダウンロードしないでください。

製品名称	対応バージョン
ApresiaLightGS110GT-SS, ApresiaLightGS120GT-SS, ApresiaLightGS128GT-SS, ApresiaLightGS152GT-SS	Ver. 1. 00. 00～1. 01. 01
ApresiaLightGS110GT-PoE, ApresiaLightGS120GT-PoE, ApresiaLightGS128GT-PoE	Ver. 1. 01. 00～1. 01. 01

◆輸出する際のご注意

本製品や本資料を輸出または再輸出する際には、日本国ならびに輸出先に適用される法令、規制に従い必要な手続きをお取りください。

ご不明な点がありましたら、販売店または当社の営業担当にお問い合わせください。

◆商標一覧

Apresia は、APRESIA Systems 株式会社の登録商標です。

その他ブランド名は、各所有者の商標もしくは登録商標です。

APLGS Ver. 1.01.01 リリース情報(2019年11月)

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10101-RC001

内容 ファンを実装する機器において、ファンの高速回転、低速回転の移行を示すログが出力されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER001

APLGS-10101-RC002

内容 PoE 対応機器において、本体の LED 表示を PoE モードに切り替えた際に、PoE 給電を停止したポートの LED が点灯状態になる問題を修正しました。

関連 APLGS-10100-ER002

APLGS-10101-RC003

内容 コンボポートにおいて、光ポートがリンクアップしている状態で対応する UTP ポートの状態を無効に変更すると、光ポートがリンクダウンする問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER002

APLGS-10101-RC004

内容 SNMP マネージャーからスイッチの MIB に書き込み操作を行う場合に、ifAdminStatus の値を変更しても、Web インターフェース上で反映されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER003

APLGS-10101-RC005

内容 複数の VLAN に IP インターフェースを割り当てた際、無効な Connected ルート情報を内部的に使用してしまう問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER004

APLGS-10101-RC006

内容 SNMP マネージャーから所定の不適切な MIB 値にアクセスした場合に、スイッチがハングアップする問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER005

APLGS-10101-RC007

内容 アクセスコントロールリスト(ACL)機能において、WEB インターフェース上の設定画面から L2 タイプの ACL ルールを新規登録、変更できない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER006

APLGS-10101-RC008

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、認証失敗のログが出力されない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER007

APLGS-10101-RC009

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、登録したローカルユーザーのユーザー名の大文字と小文字を区別しない問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER008

APLGS-10101-RC010

内容 新規登録した VLAN に対して IP インターフェースを有効にし、IP アドレスを設定した場合に、デフォルト VLAN の IP インターフェースを無効にすると、スイッチからの一部の自発パケットが送信されない問題を修正しました。
装置の自発パケットは、送信する IP インターフェースの IP アドレスを送信元アドレスとして使用します。

関連 APLGS-10000-ER009

APLGS-10101-RC011

内容 複数の IP インターフェース間で競合する IP アドレスを設定できる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER010

備考 Ver. 1.01.00 以前のファームウェアで競合する IP アドレスが設定されている場合は、バージョンアップを実施しても設定は引き継がれます。競合する IP アドレスが設定されている IP インターフェースがいずれも有効の場合の動作は不定です。

APLGS-10101-RC012

内容 IGMP スヌーピング機能において、設定したエージング時間（クエリア機能が有効の場合は、算出されたエージング時間）よりも短い時間でエージング処理が行われる問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER011

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10101-ER001

内容 Syslog 機能において、Syslog サーバーを IPv6 で登録した場合に、Syslog が出力されない問題があります。

対象 Ver. 1.01.01

修正 -

APLGS-10000-ER012

APLGS Ver. 1.01.00 リリース情報(2019年6月)

○ 機能サポート

本バージョンで追加した機能の詳細は、関連する「ハードウェアマニュアル」「ユーザーズガイド」も併せてご参照ください。

APLGS-10100-RC001

内容 対応する製品を追加しました。詳細は「ハードウェアマニュアル」および巻頭の「適用機種一覧」及び「対応バージョン」一覧をご確認ください。

関連 -

APLGS-10100-RC002

内容 技術サポート情報を取得する機能を実装しました。

関連 -

APLGS-10100-RC003

内容 ループを検知した際にログを出力する機能を実装しました。

関連 -

APLGS-10100-RC004

内容 マンションモード機能において、ポート設定を行うユーザーインターフェースを変更し、アップリンクポートを簡単に設定できる機能を追加しました。

関連 -

○ 機能修正

本バージョンでは、以下の重要な機能修正を実施しています。

APLGS-10100-RC005

内容 ポートアクセス認証機能において、クライアントの 802.1X 認証処理中に対象ポートにクライアントの MAC アドレスをスタティックユニキャスト MAC アドレスとして登録すると、スイッチがハングアップする問題を修正しました。

関連 APLGS-10000-ER001

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10100-ER001

内容 ファンを実装する機器において、ファンの高速回転、低速回転の移行を示すログが出力されない問題があります。

対象 Ver. 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC001)

APLGS-10100-ER002

内容 PoE 機能に対応する機器において、本体の LED 表示を LINK/ACT モードにした状態で、PoE 給電を停止した後に LED 表示を PoE モードに切り替えると、LED が点灯したままの状態になる問題があります。

対象 Ver. 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC002)

APLGS-10000-ER002

APLGS-10000-ER003

APLGS-10000-ER004

APLGS-10000-ER005

APLGS-10000-ER006

APLGS-10000-ER007

APLGS-10000-ER008

APLGS-10000-ER009

APLGS-10000-ER010

APLGS-10000-ER011

APLGS-10000-ER012

APLGS Ver. 1.00.00 リリース情報(2019年1月)

○ 既知の重要な問題について

本バージョンでは、以下の重要な問題があります。

APLGS-10000-ER001

内容 ポートアクセス認証機能において、クライアントの 802.1X 認証処理中に対象ポートにクライアントの MAC アドレスをスタティックユニキャスト MAC アドレスとして登録すると、スイッチがハングアップする問題があります。

対象 Ver. 1.00.00

修正 Ver. 1.01.00 (APLGS-10100-RC005)

APLGS-10000-ER002

内容 コンボポートにおいて、光ポートがリンクアップしている状態で、WEB 画面から対応する UTP ポートの状態を有効から無効に変更すると、光ポートがリンクダウンする問題があります。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

回避策 本事象の有効な対策はありません。対象となる光ポートのケーブル抜挿、あるいは光ポートの状態を一度無効にして再度有効することで復旧します。

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC003)

APLGS-10000-ER003

内容 SNMP マネージャーからスイッチの MIB に書き込み操作を行う場合に、ifAdminStatus の値を変更すると、スイッチの実動作には反映されるものの、Web インターフェース上の[ネットワーク] > [ポート設定]の設定値には反映されない問題があります。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC004)

APLGS-10000-ER004

内容 複数の VLAN に IP インターフェースを割り当てた際、VLAN インターフェースがダウン、あるいは IP インターフェースが無効であっても、そのルート情報(Connected)を内部的に使用してしまい、正常な経路情報が適用されない問題があります。例えば、初期 IP アドレスを変更せずにデフォルト VLAN をダウンにした場合、当該 IP インターフェースの経路情報(10.0.0.0/8 の Connected ルート)はルートテーブルから除外されるべきですが、内部的に有効の状態のままです。そのため、デフォルトルートが登録されていても、10.0.0.0/8 の経路に対しては適用されず、対象 IP アドレスを持つホストに対して通信できなくなります。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC005)

APLGS-10000-ER005

内容 SNMP マネージャーから所定の不適切な MIB 値にアクセスした場合に、スイッチがハングアップする問題があります。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC006)

APLGS-10000-ER006

内容 アクセスコントロールリスト(ACL)機能において、WEB インターフェース上の[セキュリティ] > [アクセスコントロールリスト] > [ACL 詳細設定]の設定画面から、L2 タイプの ACL ルールを新規登録、あるいは変更できない問題があります。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC007)

APLGS-10000-ER007

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、認証失敗のログが出力されない問題があります。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC008)

APLGS-10000-ER008

内容 ポートアクセス制御機能において、認証方式をローカルにした場合に、登録したローカルユーザーのユーザー名の大文字と小文字を区別しない問題があります。例えば、ユーザー名とパスワードが「USER」というユーザーが登録された場合、ユーザー名「user」、パスワード「USER」という認証アクセスでも成功します。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC009)

APLGS-10000-ER009

内容 新規登録した VLAN に対して IP インターフェースを有効にし、IP アドレスを設定した場合に、デフォルト VLAN の IP インターフェースを無効にすると、スイッチからの一部の自発パケットが送信されない問題があります。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC010)

APLGS-10000-ER010

内容 複数の IP インターフェース間で競合する IP アドレスを設定できる問題があります。対象の IP インターフェースがいずれも有効の場合の動作は不定です。

対象 Ver. 1.00.00 ~ 1.01.00

修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC011)

APLGS-10000-ER011

- 内容 IGMP スヌーピング機能において、設定したエージング時間（クエリア機能が有効の場合は、算出されたエージング時間）よりも短い時間でエージング処理が行われる問題があります。これにより、マルチキャストノードから IGMP レポートを毎回正常に受信できていたとしても、IGMP レポートを受信する直前の数秒間マルチキャストパケットが転送されなくなることがあります。
- ロバストネス変数を 1 もしくは 2 増加させることで、本事象によるマルチキャストトラフィック転送停止の影響を抑えることができます。
- 対象 Ver. 1.00.00 ～ 1.01.00
- 修正 Ver. 1.01.01 (APLGS-10101-RC012)

APLGS-10000-ER012

- 内容 IGMP スヌーピング機能において、クエリア機能を有効にした場合に、最大応答時間を 13 秒以上に設定すると、IGMPv3 クエリーで誤った値を通知してしまう問題があります。この場合、マルチキャスト通信は正常に行われません。
- 対象 Ver. 1.00.00 ～ 1.01.01
- 修正 -

○ 注意事項

本バージョンでは、以下の注意事項があります。

APLGS-10000-NT001

- 内容 ファームウェアのバックアップ機能において、バックアップ実行中に作業が中断された場合でもバックアップ成功のログ(Firmware backup successful via http.)が表示される問題があります。
- バックアップ完了後は、ファイルサイズやハッシュ値をご確認ください。
- 対象 Ver. 1.00.00
- 修正 Ver. 1.01.00

APLGS-10000-NT002

- 内容 [設定情報] > [バックアップ/レストア] ページにおいて、本来「設定レストア」と表示すべき項目が「設定バックアップ」と誤表示されている問題があります。そのため「設定バックアップ」が当該ページで 2 箇所表示されますが、上方の表示は正しく、下方の表示が不正確です。
- 設定バックアップあるいはレストアの作業時にはご注意ください。
- 対象 Ver. 1.00.00
- 修正 Ver. 1.01.00

ApresiaLightGS シリーズ ファームウェア
リリースノート

Copyright(c) 2019 APRESIA Systems, Ltd.

2019 年 1 月 初版

2019 年 11 月 第 3 版

APRESIA Systems 株式会社
東京都中央区築地二丁目 3 番地 4 号
(築地第一長岡ビル)